

甲府市遊亀公園・附属動物園 市民ワークショップ報告書

Kofu Yuki Park&zoo Workshop report





目 次

1 遊亀公園・附属動物園のワークショップについて	1
・はじめに	
・参加者	
・ワークショップの開催時期と主な内容	
・施設の位置	
・遊亀公園及び附属動物園について	
・遊亀公園の現状	
2 ワークショップで話し合ってきたこと	4
・現地視察	
・ワークショップの検討の流れ	
3 まとめ	
公園の将来像	6
動物園の将来像	11
おわりに	16
4 資料	
募集要項	17
参加メンバー	19



1 遊亀公園・附属動物園のワークショップについて



●はじめに

甲府市では、甲府市遊亀公園附属動物園が平成31年に開園から100周年を迎えることから、これを契機として、動物園を含めた遊亀公園の一体的な整備を実施することとしました。また、事業推進にあたり「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト」において、こども最優先のまち創りにおける施策に位置付けています。

そこで、市民との協働・協創により、子育て世代の想いを整備計画に取り入れ、安らぎと憩いを感じられるような公園・動物園づくりを行うため、「子育て世代」を中心としたワークショップを行ってきました。

今回は、この遊亀公園を整備する計画を作成するためのワークショップであり、本報告書は、この計画段階において「子育て世代」が考える遊亀公園について成果を取りまとめたものです。

●参加者

広報やホームページでの募集等を通じて集まっていた18名の市民
・原則20～40歳代の「子育て世代」で、市内在住または在勤

●ワークショップの開催時期と主な内容

	日 時	検討テーマ
現地視察	7月22日（土） PM1:30～	現地視察（公園・動物園の現状確認）
1 回目	8月1日（火） PM7:00～	遊亀公園のあり方を考えよう （公園・動物園、環境教育、景観、あそび場）
2 回目	8月31日（木） PM7:00～	行きたい公園 様々な視点で深堀
3 回目	9月28日（木） PM7:00～	行きたい動物園 様々な視点で深堀
4 回目	10月30日（月） PM7:00～	グループ発表

●施設の位置



●遊亀公園および附属動物園について

遊亀公園は、甲府市のほぼ中心にあり、ＪＲ甲府駅から南に約 1.8km に位置し、中心市街地にも近接する立地環境にある都市計画公園（近隣公園）です。遊亀公園の歴史は古く次のような経過があります。

- ・ 甲府城の築城（一条小山）に伴い一蓮寺を現在地へ移設
- ・ 明治 7 年 一蓮寺の敷地の一部を、公園造成のため山梨県に移管。
- ・ 明治 9 年 藤村県令が造園を命じ 3 年掛けて遊亀公園を完成させ、甲府 37 カ町役所に管理を委託。
- ・ 明治 23 年 甲府市制施行の翌年に、管理を県に返還。
- ・ 大正 6 年 柳町の村松甚蔵氏が、山梨県から甲府市へ遊亀公園の無償譲渡を条件に、陸軍省から甲府城（舞鶴城公園）の払い下げ財源を山梨県に寄附。そして、一部を稲積神社境内地としました。
- ・ 大正 7 年 甲府市遊亀公園の誕生。

※遊亀の由来

舞う北の「舞鶴城公園」に対して、亀が遊ぶ南の「遊亀公園」と命名された説と、一蓮寺の住職で遊行（ゆうぎょう）尚人がおり、境内の池に亀がたくさんいたので尚人の遊と亀をくっつけて、遊亀とした説があります。

遊亀公園附属動物園は、大正 8 年に公園内で小動物を展示したことに始まり、その後、施設整備を進め大正 13 年に名称を「甲府動物園」として開園しました。太平洋戦争の戦災により焼失した後、民間により復興されましたが、昭和 27 年に再び市立動物園となり、中国の姉妹都市である成都市を中心に、動物の拡充などに努め現在に至っています。

遊亀公園および附属動物園は市街地のシンボリックな存在であり、周囲の公共施設などと連携しつつ、魅力的な空間づくり（ハード）と運営（ソフト面）の充実が求められています。



※遊亀公園附属動物園の経過

- ・大正 13 年 甲府市動物園の名称で経営開始（丹頂鶴の御下賜あり）
- ・昭和 20 年 太平洋戦争の戦火により焼失 公園広場に復興住宅を建設
- ・昭和 21 年 民間で動物園開園（獣医師小林氏に貸与）
- ・昭和 27 年 市立甲府動物園として再発足（10 月 1 日）
- ・昭和 30 年 文部省から博物館相当施設として指定を受ける

■遊亀公園の現状

公園内には沢山の樹木や噴水、修景池や売店などと、動物園や駐車場が併設されています。周囲は住宅に囲まれており、市民の憩いの場になっています。

また、動物園内には、懐かしい雰囲気のある遊園地もあります。



2 ワークショップで話し合ってきたこと



●現地視察

- 日 時 平成 29 年 7 月 22 日（土）PM1:30～3:00
- 場 所 甲府市遊亀公園および附属動物園
- 参加者 9 名

ワークショップで検討する前に、現地の状況を確認する現地視察を行いました

■当日の流れ

公園の歴史・現状確認



動物園の管理事務所前に集合し、その後、一蓮寺側へ移動。元々は寺の敷地であった事、遊亀公園は県から移管を受けた事の説明を受け、現況図を確認しながら周辺を確認して回りました。遊具や樹木の状況、渡り鳥の巣、整備された駐車場や老朽化している園路など、各ポイントで説明を受けました。

動物園・現状確認



動物園では、動物飼育（繁殖を含む）や獣舎。動物病院の状況とともに、近年の入園者数（収入）と経費（餌代）がほぼ同額であること。留意点についての説明を受け、バックヤードも見学しました。

まとめ

メンバー各自で、公園・動物園の良いところや改善すべきところをまとめました。

■公園を視察して感じたこと

【良い点】

- ・雑草がほとんど無い
- ・駐車場が広くなって良い
- ・木陰があって夏は良い

【改善すべき点】

- ・トイレや遊具が古く、小さい子が使いやすいものに
- ・園路のデコボコを改善し、ベビーカーでも歩きやすいように
- ・屋根のあるところが少ない食事スペースの充実
- ・池が汚い。透き通っていただければいいが
- ・木が多く少し暗く感じる
- ・夏は水遊びができたり、ミストがほしい
- ・安全のため、バイクや自転車の乗り入れを禁止すべき

■動物園を視察して感じたこと

【良い点】

- ・動物を近くで見ることができる
- ・希少種が多いとは知らなかった
- ・小さい子どもにはちょうど良い
- ・他では味わえないレトロ感や田舎っぽさ
- ・歴史ある遊園地
- ・サマースクールなどの事業

【改善すべき点】

- ・バックヤードツアーは面白い。子どもも勉強になり考えさせられる。
- ・もっと多くの動物と触れ合いたい
- ・長く運営するには設備（バックヤード等も含み）を考える必要
- ・動物が押し込まれている印象がある

●ワークショップの検討の流れ

第1回ワークショップ



はじめに、樋口市長からワークショップの開催趣旨を含めたご挨拶をいただきました。その後、帝京科学大学の佐渡友講師から、「私が行きたい公園・動物園（監修：並木教授）」として、全国各地の公園や動物園を見てきた経験の中で、自らが行きたい公園・動物園の要素についてお話をいただき、現地視察を通じて考えた、公園・動物園の将来像やほしい機能などを検討しました。

第2回ワークショップ 公園の深堀



「行きたい公園 様々な視点で深堀」をテーマに、幼児の遊具やアスレチック、雨の日でも遊べる・水遊びができる・レストランやカフェなどの意見や要望、公園からも動物園からも利用できるビジターセンターなど、A B C D各班で意見や提案、疑問点などを整理し、班ごとに選出されたメンバーが発表しました。各班の仲間意識？が芽生えたような、楽しい発表会となりました。

第3回ワークショップ 動物園の深堀



「私が行きたい動物園について考えよう 私たち市民が求める動物園 様々な視点で深堀」をテーマに、動物園が社会情勢の変化への対応や、国際的な動物福祉の考え方に配慮した今後の動物園のイメージ・方向性等の難しい議論となりましたが、様々な観点から、多様な意見を出し合いました。

第4回ワークショップ 最終まとめ

グループ発表（提言）



3 まとめ（第4回ワークショップ グループ発表）



公園の将来像

●各グループからの提言一覧



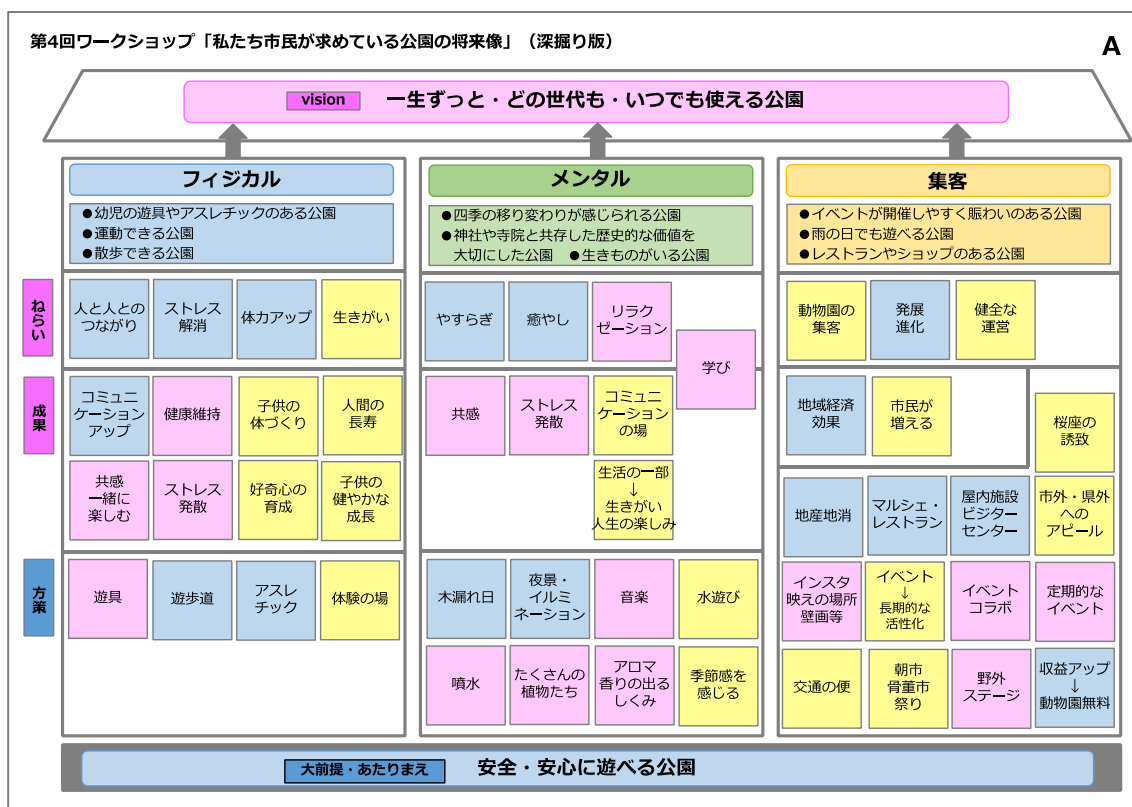
公園の将来像

●A グループ

我々は構造的に考えて、公園の家をつくりました。まずは、土台となるのは「安全・安心」で当たり前のことなので、敢えて具体的には議論しませんでした。この土台に公園として必要な要素として「フィジカル」「メンタル」「集客」という三本柱で整理し、ねらい・成果・方策を検討しました。この構造によって、「一生ずっと・どの世代も・いつでも使える公園」像をめざすことができると思いました。

「フィジカル」は運動・子どもの成長のために遊具やアスレチックを整備し、「メンタル」はコミュニケーション・学び・ストレス発散・癒やしのために、四季を感じる植物・音楽・夜景・イルミネーション・水遊び・噴水・生きものたち・アロマなどの活用を挙げました。集客も大事な柱で、動物園との相互作用で集客効果を高め、健全な運営ができるようになってほしいと考えました。集客によって、周辺地域の経済効果も生まれて、地域が発展していったほしいと考えています。集客のためには、レストラン・マルシェなどのイベント・アクセスの改善・野外ステージの整備が必要だと思います。

さらに、今回のワークショップのような場を定期的に継続していくことで、市民の声が届くように、しくみづくりが必要だと思います。



公園の将来像

●B グループ

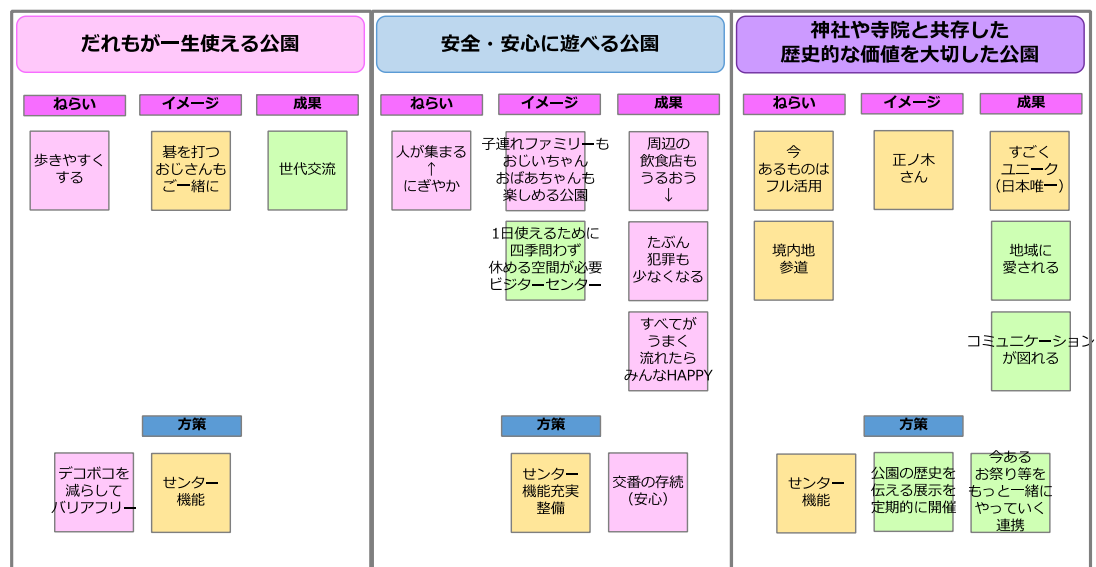
「誰もが一生使える公園」「安全・安心」「神社・寺院との共存」の3つを重要と考え、深掘りしました。

「誰もが一生」では、誰もが過ごしやすい、歩きやすい、世代交流ができる公園をめざし、「安全・安心」では今も入口に交番があって、その要素は満たしているとは思いますが、もっと「安全・安心」であれば、集客が望めると思います。また、「神社・寺院との共存」している特徴（お祭り・参道・地形など）を残し、活かしていけば、ユニークな公園・動物園ができるのではないかと考えました。



第4回ワークショップ「私たち市民が求めている公園の将来像」（深掘り版）

B



20世紀の
ノスタルジー
を残す

21世紀的な
知恵

公園の将来像

●Cグループ

「一生ずっと・どの世代も使える公園」が重要と考え、「誰でも」、「1日3世代が過ごせる」という公園像を選びました。みんなが使いやすく、いつでも使える公園にするためには、駐車場の位置をわかりやすくする事や、平日でも行きたいと思えるようなカフェやロケーション、エリアを限定した使い方などの意見や通りから入りやすい公園にするような事が大事だとの意見が出ました。



第4回ワークショップ「私たち市民が求めている公園の将来像」（深掘り版）

C

ねらい
何のため

誰でも使いやすい公園

1日3世代が過ごせる公園

一生ずっと使える、
どの世代も使える公園

成果
何ができる

平日でも
行きたいと
思える公園

いつでも
使える公園

方策
そのためには
なにをするのか

駐車場が
ある
行きやすい
公園

遊亀公園
ならではの
公園

平日でも
行きたいと
思える公園

エリアを
限定した
使い方

花火はダメ
モラルある
公園

車で来られる
駐車場が必要
入りやすい駐車場
今はわかりづらい

平日利用
カフェ
人気ある店

通りから
入りやすい
公園

カフェが
ある
きれいな池がある
ロケーション

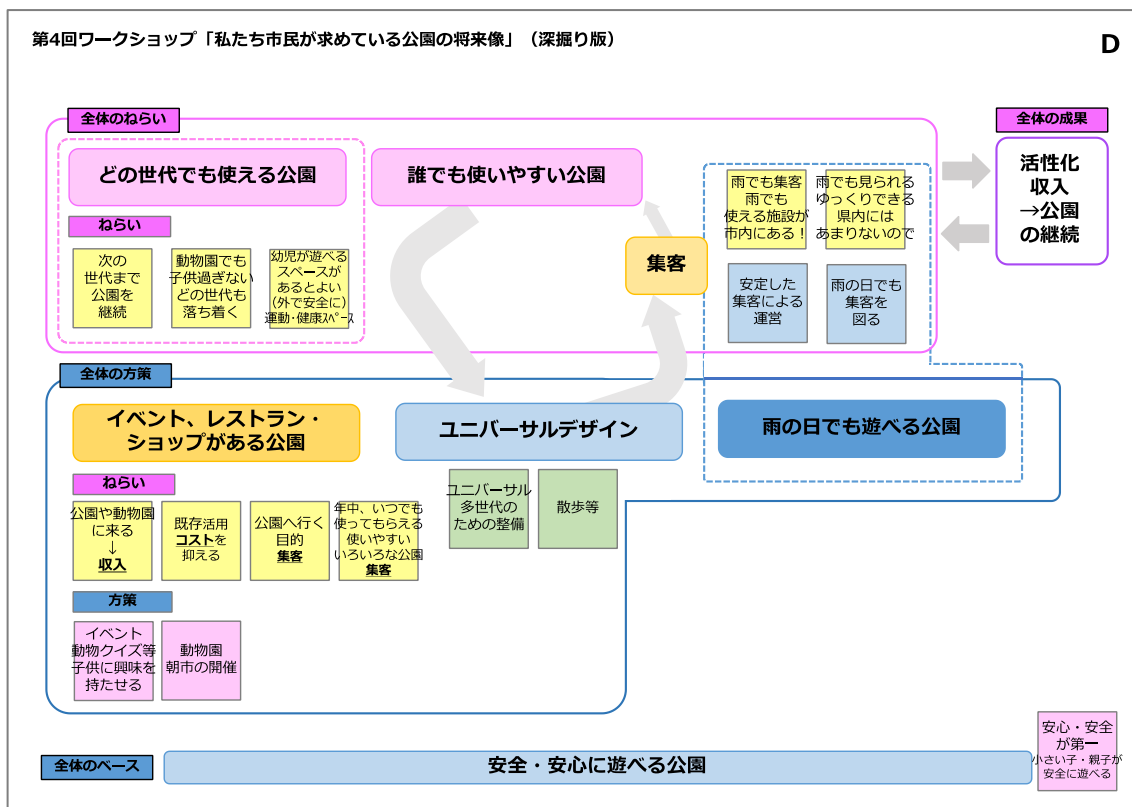
公園の将来像

●Dグループ

大きなねらいは集客としました。方策としては、雨でも遊べる、イベント、レストラン・ショップを運営することで、お客様が集まります。それによる成果は、誰でも使える公園となります。最終的には、動物園の活性化につながるという全体像でまとめました。

動物園は小さな子どもが中心になりますが、公園は中高生も大人も、いつ行っても落ち着く場所であれば、集客にもつながると思います。

また、根本は「安全・安心」でどの世代でも使える公園でなければ、集客も望めないし、公園も動物園も存続できないのではないかと考えました。



動物園の将来像

●各グループからの提言一覧

Aグループ

**動物本来の生態を
観察できる動物園**
動物の日常・人にとっては非日常

>

誰もが利用しやすい動物園
人にとっては日常
動物にとっては非日常

Bグループ

お母さんファースト
ふれあいができる動物園
子連れが使いやすい動物園

動物ファースト
今ある環境の中で最善を尽くした
上で、集客アップ

Cグループ

**ふれあいのできる
動物園**

**誰もが利用しやすい
動物園**

Dグループ

**ふれあいのできる
動物園**

**動物本来の生態を
観察できる動物園**

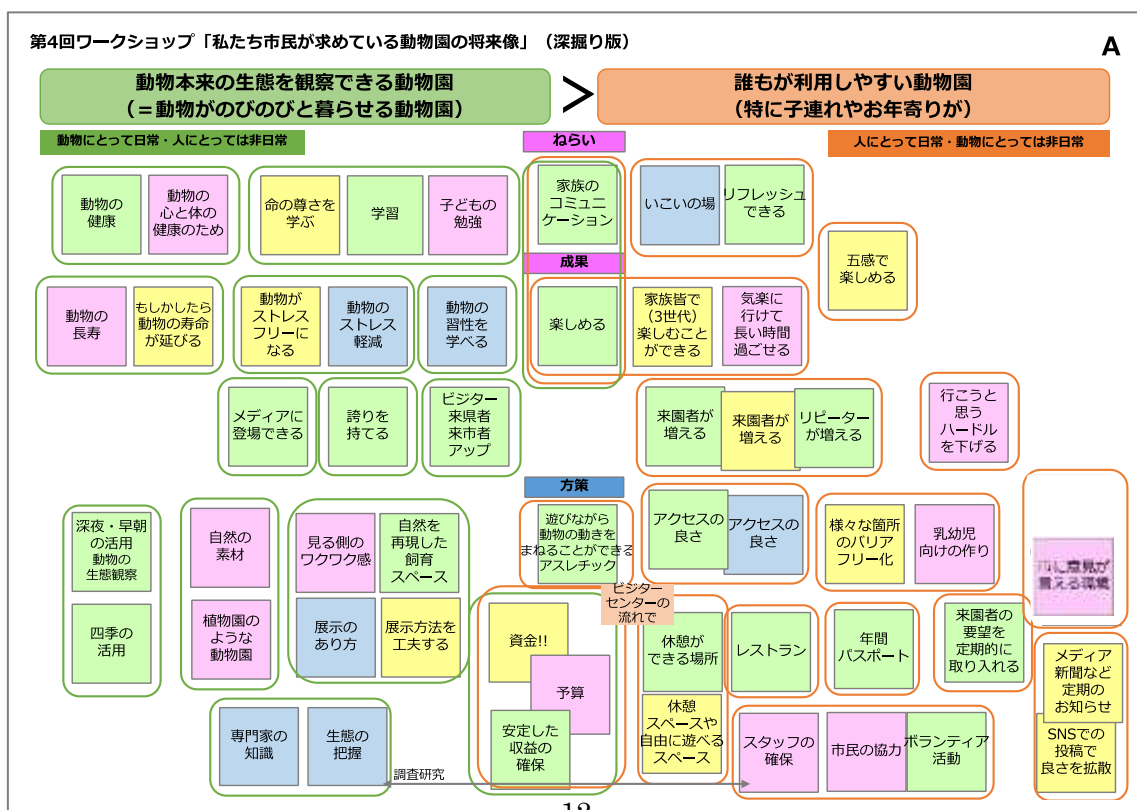
動物園の将来像

●Aグループ

「動物本来の生態を観察できる動物園」と「誰もが利用しやすい動物園」の2つの将来像を大きな枠組みとしました。どちらを優先すべきかという「動物本来の～」だと考えています。この2つの枠組みから、ひとつは「動物にとっての日常が、ひとにとっての非日常」、もうひとつは「人にとっての日常が、動物にとっては非日常」であることに気づきました。

方策については、いろいろ意見が出てきましたが、私たちは、資金・予算、集客によって安定した収益の確保、市民意見を聞ける環境づくり、メディアへの情報発信が特に重要だという意見でまとまりました。その他、五感を使ってリフレッシュできる、命の尊さを学ぶことが重要という意見が出ました。

地域に根ざした公園・動物園であってほしいが、収益という面も意識しながら運営をし、市民に還元していき、親しみの持てる公園・動物園にしていってほしいと思います。リニューアル後も市民に意見を聞きながら、発展・進化し続ける公園・動物園であってほしいと思います。



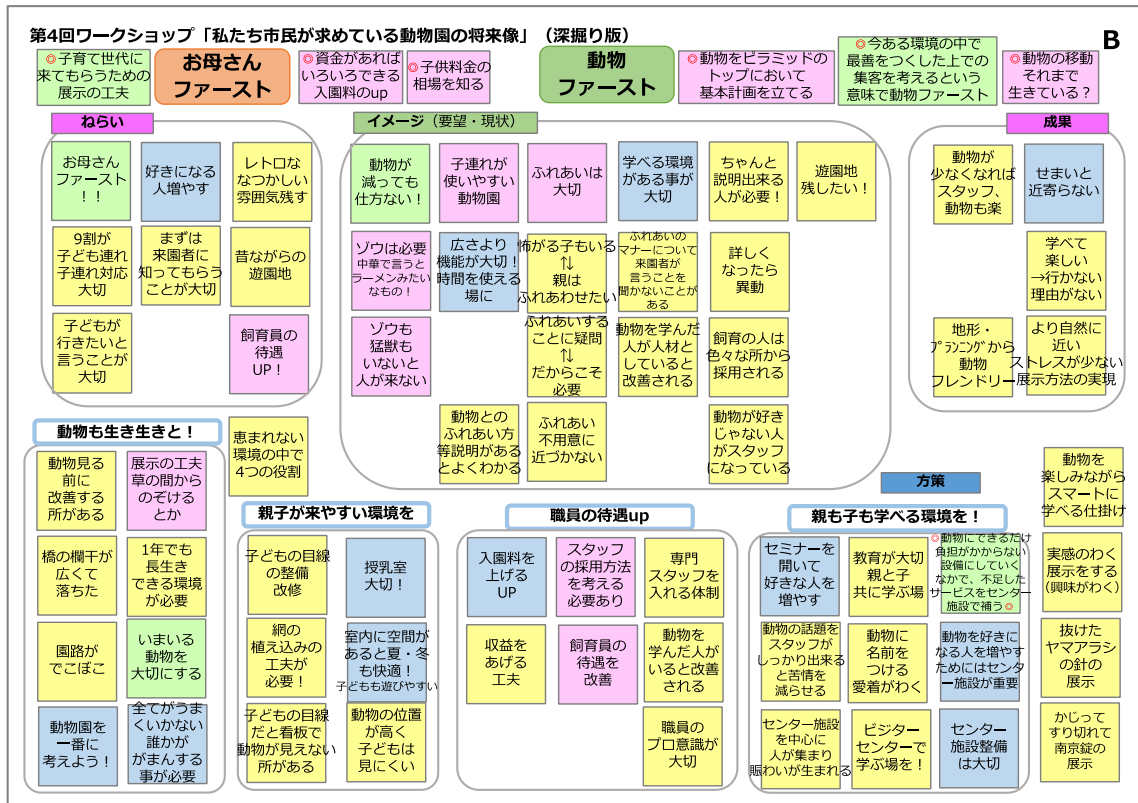
動物園の将来像

●Bグループ

いろいろ意見を出してからグループ分けをして整理をしました。

まず、抽出できたのは、「お母さんファースト」と「動物ファースト」の2つの枠組みでした。来た人達も、園の動物たちも幸せになれることを両立できるようにすべきではないかと考えました。

何より、動物ファーストで整備していくためには資金が必要となりますが、子ども料金を今は30円ですが、3倍の100円にして適正料金を探ってみることも必要だと思います。



動物園の将来像

●Cグループ

子育て世代は、子どもが楽しめる場所に連れていきたいものです。子ども・ファミリー層をメインターゲットとした動物園として、意見交換しました。

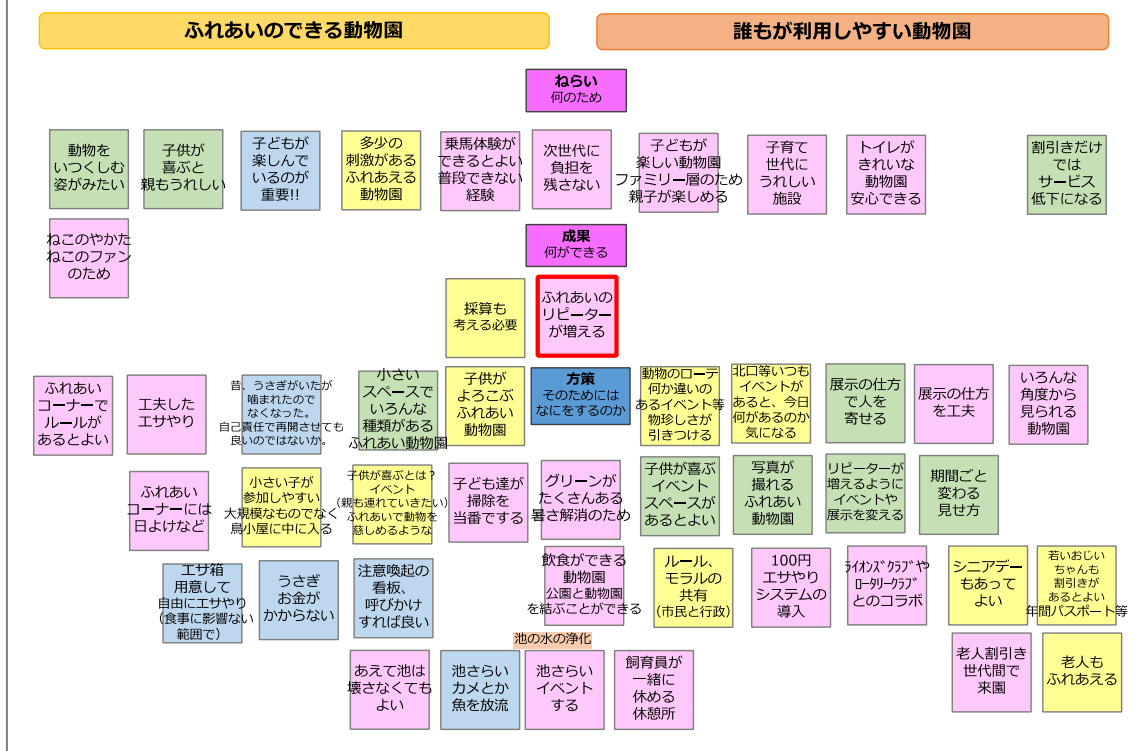
その中で一番重要なのはリピーターを増やしていくこと。そのために、「ふれあい」と「利用しやすい」を入口にしてお客様にたくさん来てもらいたいと考えました。いま、甲府駅の北口で様々なイベントをいつもやっていて活気があり、今週は何をやっているのかなあと気になるものです。いつも何か継続的にイベントを開催しているかと思ってしまうと思います。

他の班でも出ていましたが、やはり採算ということは考えなくていけない点だと思います。入園料の値引きや無料化によって人を集めるのではなく、魅力あるコンテンツを提供しつつ収益を確保し、リピーターを確保できればいいなと考えております。



第4回ワークショップ「私たち市民が求めている動物園の将来像」（深掘り版）

C

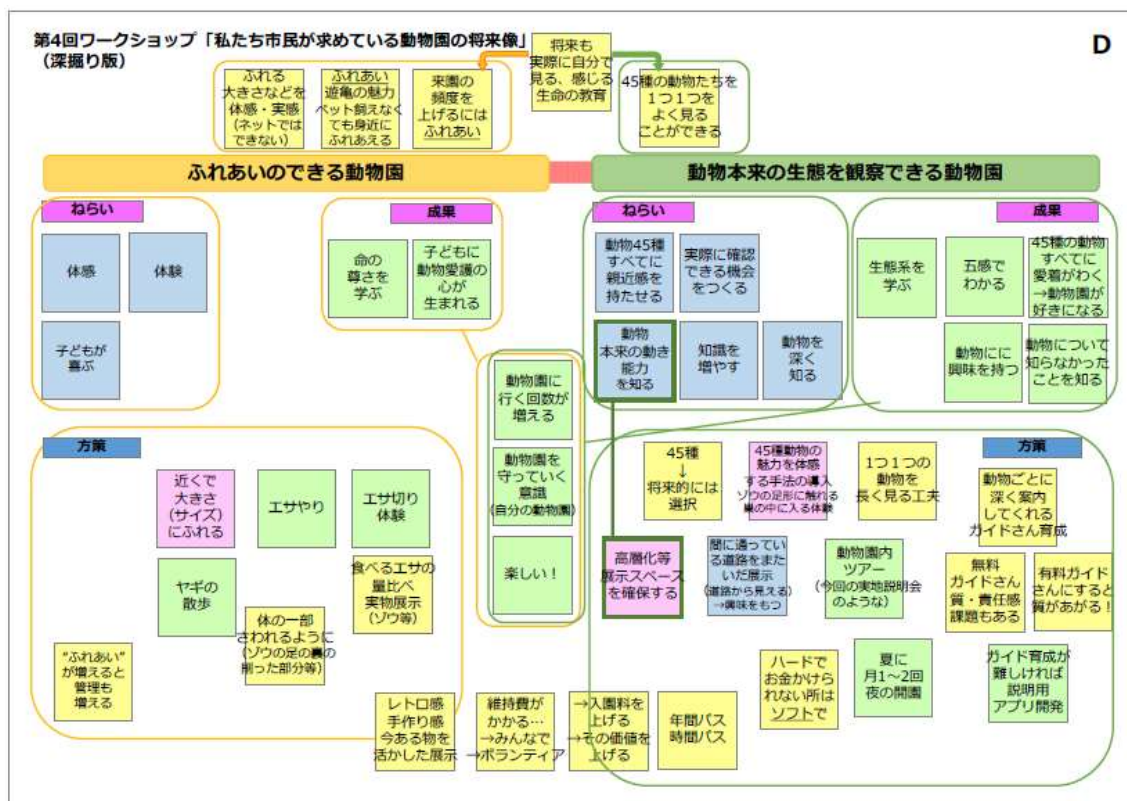


動物園の将来像

●Dグループ

動物園の根本である「ふれあいのできる動物園」「動物本来の生態を観察できる動物園」の2つを選択しました。

ひとつひとつの動物を深掘りし、興味深く見せる工夫がもっと必要だと思います。お金があればハードで、なければソフトで、ボランティアガイドや有償ガイドなど、ガイドさんがしっかり解説できるしくみづくりをして対応すべきなど、様々な意見が出ました。



●おわりに

今回のワークショップでは、各グループで熱い意見交換がなされ、短い時間でしたが、ポイントを押さえた公園と動物園の深掘りプランをまとめることができました。各グループでの発表も、チームとしての団結力を感じるものになっていました。

また、A班から継続的に公園・動物園を考えていくしくみづくりが重要という提案もあり、終了後さっそく「応援団」が結成されるという成果まで生まれました。講評いただいた帝京科学大学の並木・佐渡友両先生からは、市民参加型のワークショップで市民が自主的に活動できるしくみづくりまで成果を残せたことは大変すばらしいことで、稀なケースだと高い評価をいただきました。

今後も、市民と協働体制で、整備事業ならびに運営が推進できる布石となったワークショップであったことを、ご報告いたします。

平成29年10月

遊亀公園・附属動物園整備におけるワークショップ参加者一同

4 資料



●募集要項

甲府市遊亀公園・附属動物園整備事業における 市民ワークショップの募集要項

1 目的

甲府市は、甲府市遊亀公園附属動物園が、平成31年に開園から100周年を迎えることから、これを契機として、動物園を含めた遊亀公園全体の体系的な整備を実施することとした。また、「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト」において、こども最優先のまち創りにおける施策に位置付け事業推進を行っているところである。

このことから、整備計画（原案）を策定するにあたり、市民との協働・協創により、子育て世代の想いを取り入れた安らぎと憩いを感じられるような動物園・公園づくりを推進することを目的に、「子育て世代」を中心としたワークショップを開催する。

2 募集定員、応募資格

(1) 参加者 計20名程度

- ・市内在住・在勤（在学）で、原則20歳以上49歳以下の方
- ・平日の19時から甲府市役所本庁舎（予定）で開催するワークショップに参加できる方
- ・遊亀公園・附属動物園整備事業に関心のある方
- ・検討状況の記録（動画、写真）をホームページなどに掲載する事に承諾いただける方
- ・市の特別職、常勤の一般職、議員でない方

(2) 参加者選定方法

意見提出テーマ「動物園・公園に対する想い」や年齢、家族構成、住所などを考慮し、選考することとする。

3 募集方法

(1) 募集期間

平成29年6月1日（木）～20日（火）

(2) 応募方法

甲府市のホームページにアクセスし、インターネット上の入力フォームに、必要事項①氏名（ふりがな）、②年齢（生年月日）、③住所、④職業（勤務先）、⑤家族構成、⑥電話番号、⑦メールアドレス、⑧意見提出テーマ「動物園・公園に対する思い」（５００字～８００字程度）を入力し、送信していただくか、郵送・持参によりお申込みください。なお、入力フォームに準ずる「応募申請書」を、動物園管理事務所、本庁舎総合窓口、子育ての関係機関等に設置する。

※開催日と時間は原則、平日の19:00～20:30 の概ね１時間３０分とする。

※市が書類選考を行い、結果については応募された方に、Eメールまたは郵送にてお知らせします。

4 実施概要

ワークショップは全４回を予定しており、次のような全体説明を行う中で、参加者を数グループに分け、検討テーマについて協議することとする。

(1) 開催スケジュール（予定）

	日 時	検討テーマ
現地視察	7月22日（土） PM1:30～	現地視察（現状の動物園・公園を職員が案内する）
1回目	8月1日（火） PM7:00～	動物園・公園のあり方を考えよう （環境教育、景観、あそび場）
2回目	8月31日（木） PM7:00～	私が行きたい公園について考えよう
3回目	9月28日（木） PM7:00～	私が行きたい動物園について考えよう
4回目	10月30（月） PM7:00～	グループ発表

※会場は、甲府市役所本庁舎 6階会議室を予定する。

5 その他

- (1) 参加無料とし、参加者への謝礼や報償費等は支払わないものとする。
- (2) 会議は原則公開とする。
- (3) 開催記録（要旨）は参加者に配布し、市ホームページに掲載する。
- (4) 会議の円滑な進行のため、職員をコーディネーターとして討議の各グループに配置する。

●遊亀公園・附属動物園整備における市民ワークショップ参加メンバー

(敬称略、申込み順)

前川 みか	内田 亜弓	矢野 久
池谷 真由美	岩本 ちひろ	前田 順司
小池 麿希	新海 晴美	川上 有里
平井 千春	新海 智	佐藤 史章
小野 文子	穂坂 三枝	三枝 秀樹
石黒 仁	宮田 龍二	渡辺 たま緒

■オブザーバー（学識経験者）

- ・帝京科学大学 アニマルサイエンス学科 並木 美砂子 教授
- ・帝京科学大学 アニマルサイエンス学科 佐渡友 陽一 講師

※「甲府市遊亀公園附属動物園における教育普及活動及び研究活動に関する協定」に基づく連携

■事務局

- ・甲府市建設部まち保全室公園緑地課
 - ・事務局支援 株式会社 都市計画研究所、有限会社プランニング・ラボ